

“わたしのまち”

中野区

中野の今と昔を散歩しよう

中野四季の都市を中心としたまち歩きで歴史にふれる

区役所や中野のまちのシンボルの存在・中野サンプラザがある中野駅北口ではいま、大規模な再開発が進められています。区を中心として文化や情報を発信してきたこの地域は、「中野四季の都市」として整備が進み、平成24年にはみどり豊かな中野四季の森公園が誕生し、まちのオアシスとなつていきます。古くからの歴史あるまちの魅力と新しい都市としての魅力。未来を見据えたまちづくりが進む中野の、新たな魅力や知られざる歴史にふれるまち歩きスポットを紹介します。

まちづくりが進む最新の中野

再開発が進み、いま大きく変わりつつある中野駅周辺地域。同駅の北口では、平成13年まで警察学校等で使用されてきた跡地を含む約16万8000平方メートルものエリア「中野四季の都市」が再整備されています。

このエリアの中央部には、その敷地面積が約1万5000平方メートルにもなる中野四季の森公園があり、都市の中のオアシスとして、人々が木陰や芝生でくつろいだり、子どもたちが噴水で遊ぶなど、人々の憩いの場となっています。また、公園の西側には明治大学や帝京平成大学、早稲田大学中野国際コミュニケーションプラザといった大学施設が、そのほか公園の周囲には商業

施設やオフィス、病院などが建ち並んでおり、学問や商業、業務の拠点にもなっています。さらに、このエリアでは、中野区役所の新庁舎が中野駅北口から移転することが予定されています。中野四季の都市の東側には、現在の中野区役所や中野サンプラザが建ち並んでいます。昭和48年に開業した中野サンプラザは、ホテルや結婚式場、レストラン、スポーツなどの様々な機能を持ち、開業当時は画期的な文化複合施設でした。コンサートホールとしても広く知られ、積極的に海外から来日するアーティストのコンサート会場として受け入れるなど、若者たちからの多数の支持を得ました。



北野神社にある力石。かつて力石を用いた力試しは、重い石を持ち上げることによって一人前として社会に認められた、地域の若者にとっての通過儀礼であった





中野四季の都市(まち)の中心部にある中野四季の森公園では、毎年10月に行われる「中野にぎわいフェスタ」など、大型イベントが開催される
中野4-13



中野のシンボリック的存在である中野サンプラザ。コンサートホールは音楽家が選ぶ優良ホール100選に選ばれ、多くのアーティストがコンサートを開催している 中野4-1-1



個性的な店が連なる中野ブロードウェイ。中野駅北口の商店街と一体化し、昭和の雰囲気が残るまちとして多くの観光客を迎えてきた
中野5-52-15

一方、中野サンプラザのすぐそばには、中野ブロードウェイがあります。もともとは東洋一をうたう商業住宅複合施設として昭和41年に開業した際には高級店が数多くありましたが、時代とともに店舗が細分化され、テナント数が増えると同時に庶民化していきました。現在では、サブカル(サブカルチャーの略)の聖地として、地下1階から地上4階までレトロなおもちゃ屋や古本屋、マニアックなお店や趣味の専門店など約300軒もの店が並び、サブカルチャーが好きな人でなくても、店舗や商品を見ただけでも時間が経過するのを忘れてしまうほどです。

日本国内のみならず海外からの観光客も多数訪れ、多くの人でにぎわっています。また、周辺には飲食店が連なっているため、まち歩きで疲れたらひと休みすることができ、安くておいしい居酒屋や人気のラーメン店、おしゃれなカフェなど気軽に入ることができるお店が多数あります。

また、周辺には飲食店が連なっているため、まち歩きで疲れたらひと休みすることができ、安くておいしい居酒屋や人気のラーメン店、おしゃれなカフェなど気軽に入ることができるお店が多数あります。

平安を願う古くからの庶民の信仰

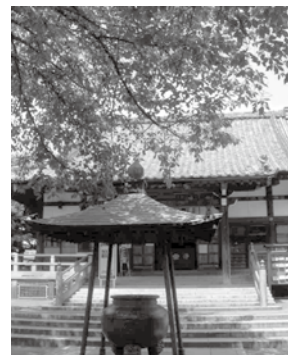
中野区には、寺社や石仏など昔から庶民に信仰されてきたスポットが数多く残っています。

中野ブロードウェイを抜けて早稲田

通りに沿って東に向かって少し歩き、商工会館の先の信号を左に曲がると新井薬師に向かう商店街、薬師あいロードがあります。ここは、新井薬師の門前町としてにぎわい、古くからの店に加え雑貨屋やカフェ、レストランなども多く、中野駅から新井薬師に向かう散策コースとして人気がある通りです。

新井薬師(新井山梅照院)は、かつて、東の浅草寺、西の新井薬師といわれるほど、人々の信仰を集めてきました。江戸時代、玄鏡という僧が夢のお告げから子どものための調合薬を作り、多くの子どもを救ったため、子育て薬師として信仰されました。また、治眼薬師としても有名で、徳川二代將軍秀忠公の第五子和子の方の眼病を治したとも伝えられています。境内には湧き水があり、近隣の人が汲みに来る姿もよく見られ、「ここで汲んだ水でお茶やコーヒーを入れるとおいしい」という声が聞かれます。

新井薬師の近くにある北野神社はこの地域の鎮守社で、菅原道真、保食神(うけもののかみ)の神様を合祀し、11月に行われる



通称・新井薬師として知られる新井山梅照院は、子育て薬師、治眼薬師として今なお人々の信仰を集める。ご本尊は二仏一体の秘仏で、寅年のみ御開帳される 新井5-3-5



新井薬師の開祖とされる僧行春(ぎょうしゅん)が創建したのがはじまりだといわれる北野神社。境内には「自分の悪いところを撫でると治る」とされる「撫で牛」もある 新井4-14-3

西の市はにぎわいを見せます。境内には、娯楽の少なかった時代、明治から大正にかけて、祭りで若者が力試しに使った力石(区指定有形文化財)が残されており、その大きさに驚くほど。刻まれている銘文から二拾五貫目(約93キログラム)から四拾八貫目余(約180キログラム)までの石を持ち上げ、奉納したことがわかります。

北野神社の北西、妙正寺川を越えて足を延ばすと、西武新宿線の線路の近くに清谷寺があります。ここには、歴史的にも貴重な資料である十三仏板碑(区指定有形文化財)があります。十三仏とは、人の死後初七日から三十三



十三仏板碑が残されている清谷寺。かつて地藏堂屋敷だったものが寺となった 沼袋3-21-7

旧中野刑務所跡地に開設された平和の森公園。整備される際に、敷地内からは弥生時代を中心に縄文・古墳時代の住居跡や多数の土器などが出土した 新井3-37-6



平和の象徴が残る公園

回忌まで、十三回にわたって閻魔王の前で生前の罪を裁かれるといわれますが、その際に救ってくれる仏をそれぞれ表したものだ。この板碑は応永6年、死後の供養を生前自ら行うために建てられたもので、当時の人々の信仰の厚さをうかがい知ることができます。

北野神社から清谷寺へ向かう途中、みどり豊かな平和の森公園があります。ここにはかつて、多くの思想家や哲學家が収容されていた豊多摩刑務所があり、小林多喜二や亀井勝一郎、埴谷雄高などの著名な文学者も収容されました。

明治43年に市谷監獄がこの地に移転し豊多摩監獄としてはじまり、その後、豊多摩刑務所に改称、戦後連合軍の拘禁所を経て中野刑務所と名を変え、関東大震災、戦争、安保闘争と続く動乱の時代の歴史とともに歩んできました。昭和58年の刑務所の廃庁後、その跡地は公園として整備が進められ、現在は地域の人々の憩いの場となっています。

かつての豊多摩監獄は大正時代の若き建築家・後藤慶二による設計で、日本を代表する煉瓦建造物とも評された美しく崇高なその姿はいまはもう残っていませんが、唯一、赤レンガ造りの表門だけが中野水再生センターに隣接する法務省矯正研修所内に残されており、通りから姿を見ることができ、散策の折に、平和の象徴として残るその優美な姿は一見の価値ありです。

平和の森公園から中野

中野駅北口まち歩きMAP



駅北口までは歩いて約17分、今回取り上げた各スポットを巡れば、進化を続けるまちの中で、歴史を感じさせる場所が数多く残る中野の魅力を知ることができます。

新たなまちづくりが進む中野駅周辺

は、今後さらに、区役所や中野サンプラザ一帯の再整備や、増加する通勤・通学人口のため中野駅西口の設置、駅南口地区の開発などが進められる予定です。大きく変わる中野区のいま、を歩いて見てみませんか。